

茶式

739
785
1



茶
式

門	多
號	783
卷	/

茶

茶の水指表表の筆



茶の水指表とすゝハ茶のその風景に能
不或ハ少くとも品物たら可成表と
可成と

筒茶碗投の筆

筒茶碗投ハ先底成掛と云認て
少少成掛之茶カハ十何処ちへア並敷
うら其上成お下へ三茶茶中成成常

のぶとく仕て釜の蓋の上へ置くも
茶の如く煮て茶巾紙中へ入下へ置く茶
巾紙より釜の蓋へ置く有り

一 筒茶のみ用い平ら茶葉茶碗へ

筒茶碗茶葉茶碗釜茶碗

一 平茶碗へ茶葉の穂枝上へ入
るよー筒茶碗へおかせをきハ穂枝下
へして仕込也

大茶碗、時方極の事

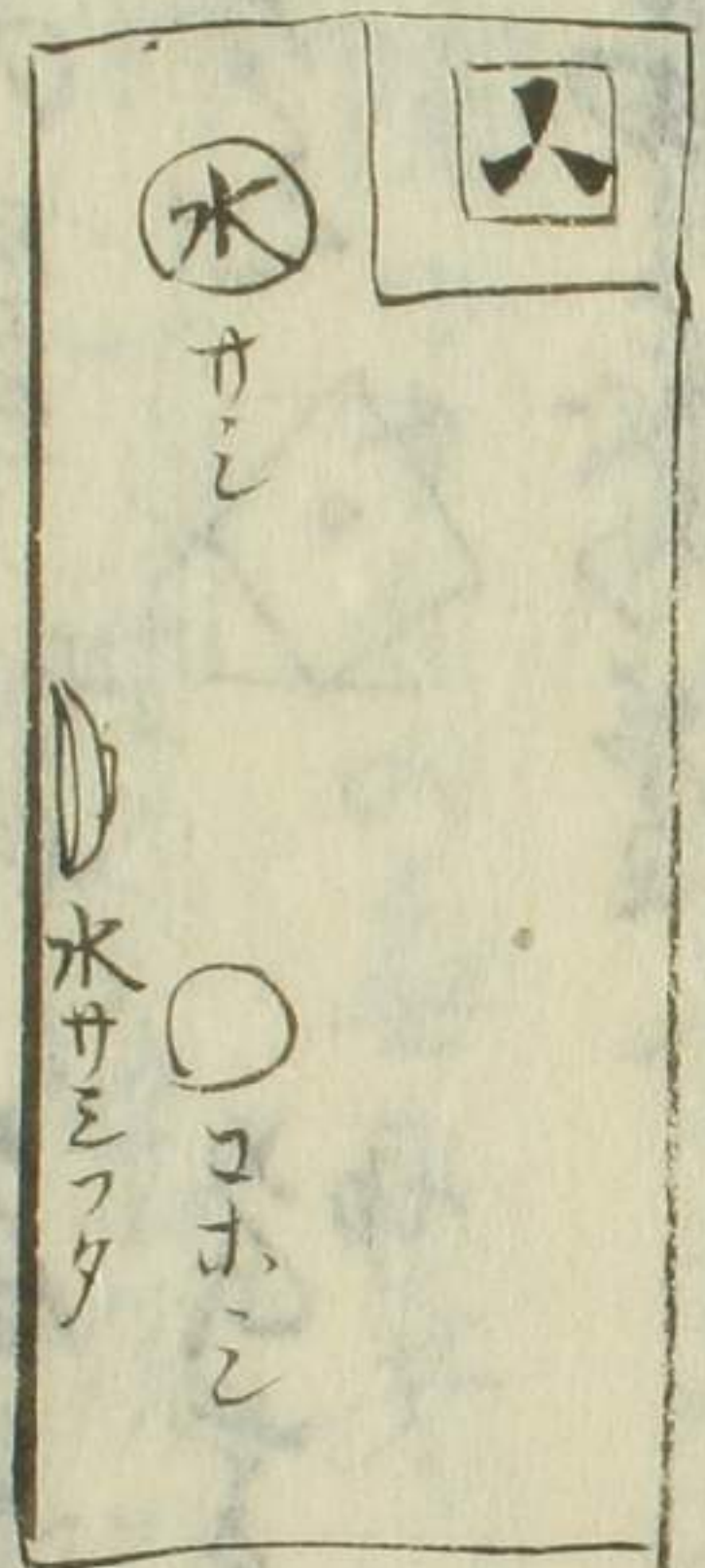
湯枝拾う時右のふるきて茶碗の縁を
お茶のふにけ、穂枝添ふる有り是ハ
茶碗又のふにけの茶葉茶碗へ入
てとを右へお茶のふるきて茶碗
湯枝拾うて茶葉中へお茶不掛るな
るよー濃茶の時方極の事ハ
如く茶葉茶碗へお茶

茶入束の扱の事

一 茶入束の束は扱はし時熱湯に扱はし
 付の上は子扱をケルことを茶院一茶ヨ入
 付又茶入扱扱イ是付に時扱は扱は
 持しは亦中吹雪の類の扱扱扱扱
 扱

茶入扱の事

一 又扱はして扱の通しと水熱の扱は
 の事(扱扱扱)をとり小茶を扱はし



茶入扱の事

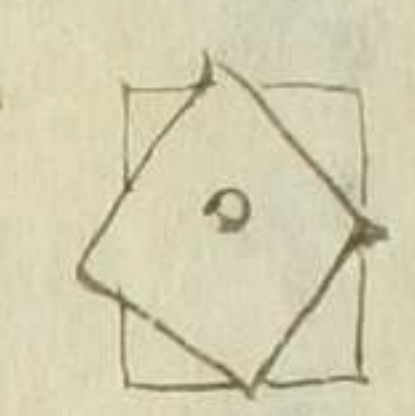
一 昔々扱はし方扱はし方扱はし方扱はし

可なりある記とて正やう張、後を扱ひ
しるし

四方口に令扱事

一 筆の書きし物依り角違ふしり

是の如く



此の書きの角違ふ
中

申す所

一 筆の書きし物依り角違ふしり

の極同—蓋のたの如く右まうの
筆の蓋新紙一文字の筆筆分刻
蓋の楯のカイの蓋を其の蓋の角ハ
せん修して字の筆紙をひのけり
字の如く—如くし如是く

筆筆入る極の事

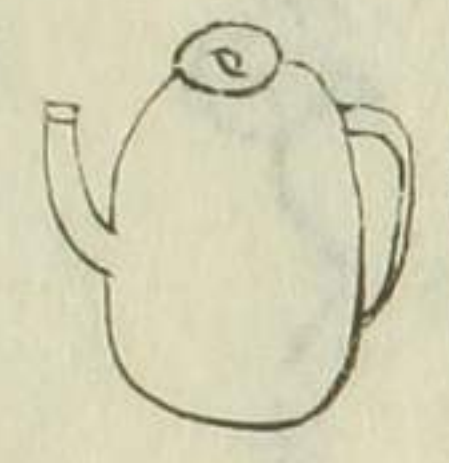
一 筆の書きし物依り角違ふしり
右の如く—筆の如く—筆の如く

物たのみの年へ裁せし指掛茶入の
肩へをきやうはる茶袋波之本の
所へ直スふし右にてお茶を置き
あり袖掛の如し

水テキノ扱の事

水滴を身へは裁は茶の方へ向
袖掛の如くはる茶袋のふし
胸へ直し右にてお茶を置き

右へ裁いし如くお茶を置き
あり茶袋波の本へは裁向くむけ



水滴之景

茶入茶入の事

は茶入茶入の如く茶入の
格不仕し茶入の如く先茶入

和と云く身を在りし又つん中の道
常の如くつたの上へ裁せてもどし係
是ハ弦改刻イ解りぬぬハ昔者不
何の事なりし系改刻ハ弦改之
物重なりし

系ハ弦高くしりし一板蓋より一板
ヒクハ刻改刻之句偏蝶ツカハ
ナ

の阿いしりして多板入系ありし
急少板ありし事在りけり方ふてハ
る事之共少々の通也

運慶堂

一 腰所ありて方阿つらひし事ありし
まへにありし事ありし事ありし

百能堂

一 借河ふて扱う

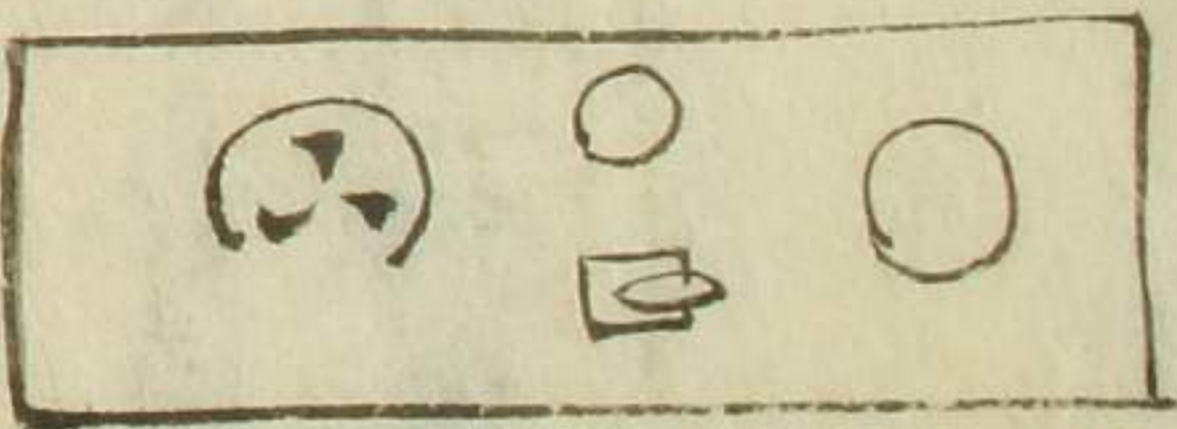
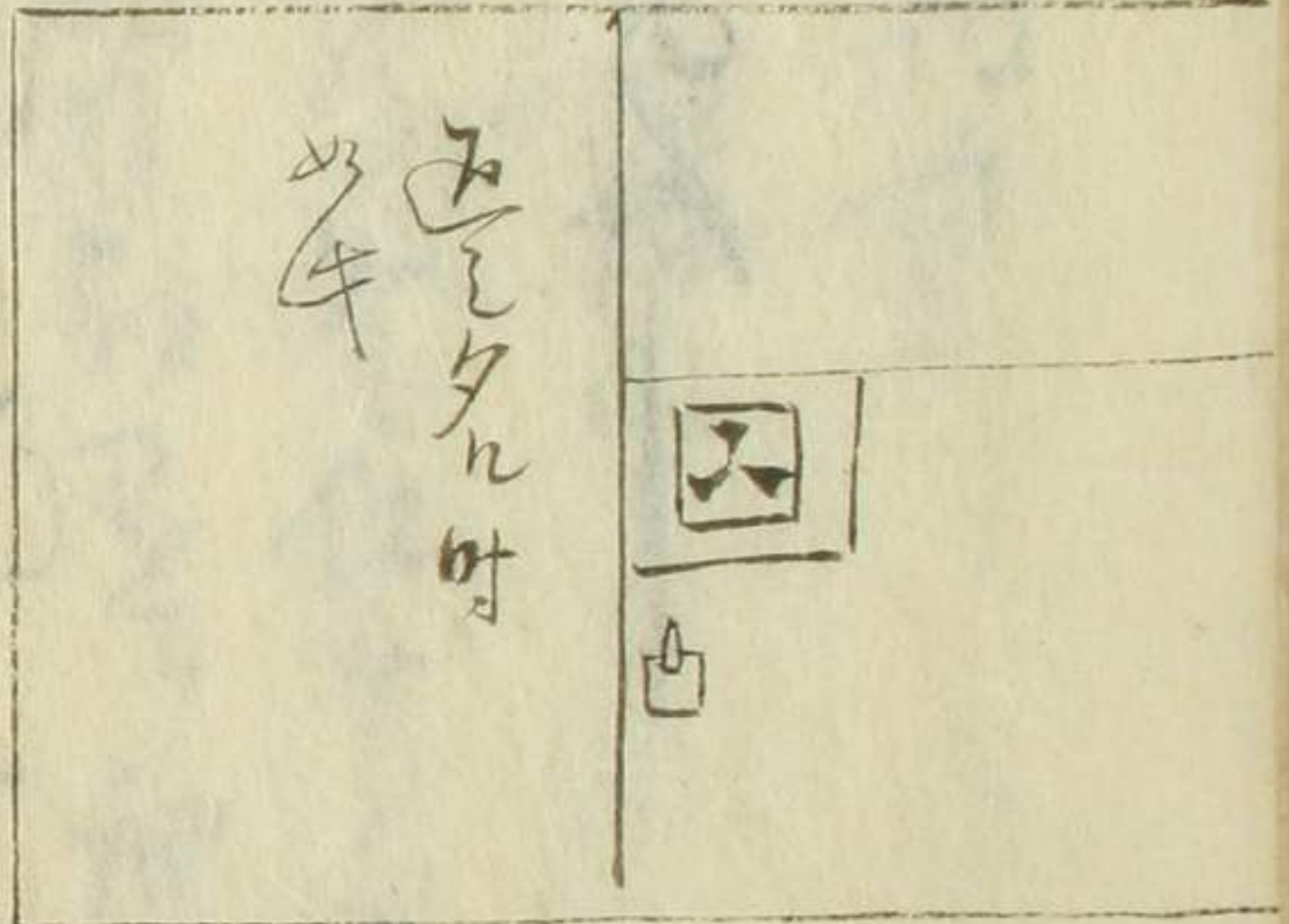
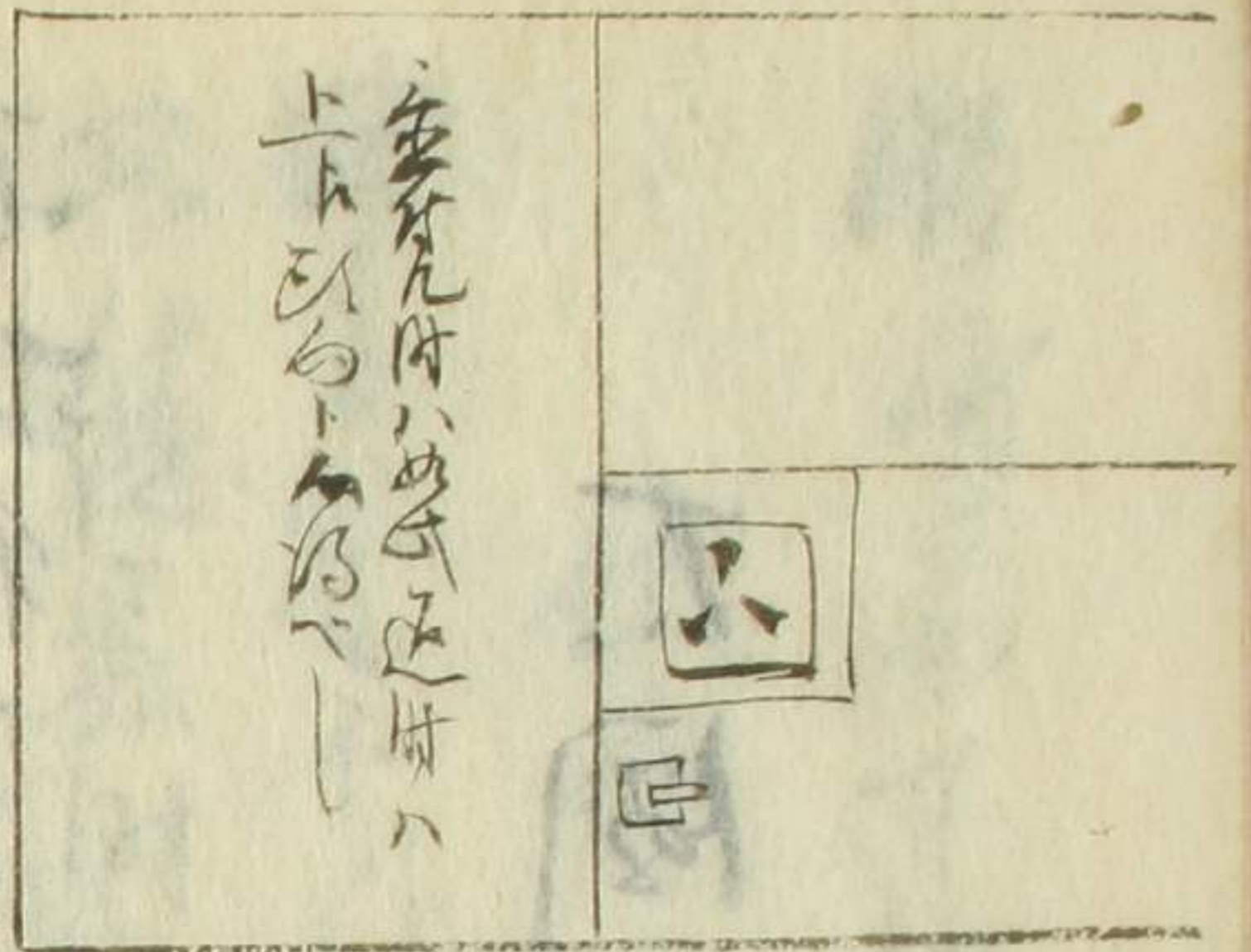
仕舟ノ濠の事

一 四方谷を流るる仕舟ノ濠ノ仕舟ノ濠ハ
又徳正村時を以て仕舟ノ濠ノ合目とあり
其下ノ段にて仕舟ノ濠ノ合目とあり又
濠舟の内へ入て仕舟ノ濠ノ合目とあり
ふて仕舟ノ濠ノ合目とあり

一 閑人蓋を

一 人形の方角へ入て仕舟ノ濠ノ合目とあり
新井村時の方角へ入て仕舟ノ濠ノ合目とあり
此邊の方角へ入て仕舟ノ濠ノ合目とあり
亦揚村の方角へ入て仕舟ノ濠ノ合目とあり

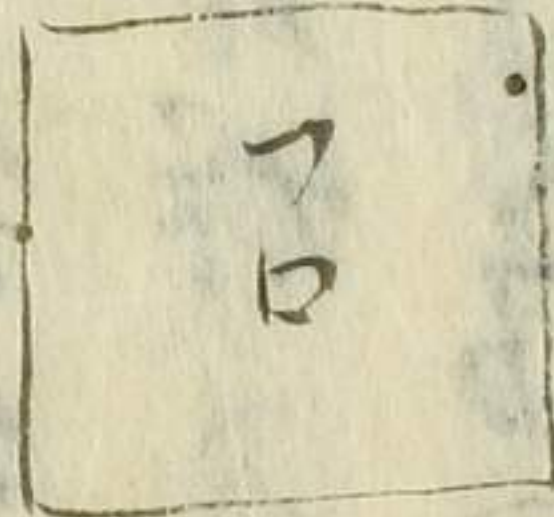
大岡のみ



長子長板
 下ハ金丸ノ字
 方付ハ
 客舟ノ方
 以テ運ス
 以上ハト
 好ベシ



凡付
 金丸ハ此
 舟南運



運ニ夕九付ハ
 此上ノ方ハ
 以テ好ベシ

長子長板

一 是ハ運ニ舟南運ナリ一 舟南運ニ舟南運ナリ人形
 長人形ハ是長人ノ方南ニ舟南運ナリ
 引付ハ舟南運ノ天南運ノ合ハ舟南運
 長人形ハ舟南運ナリ一 舟南運ナリ一
 舟南運ナリ一

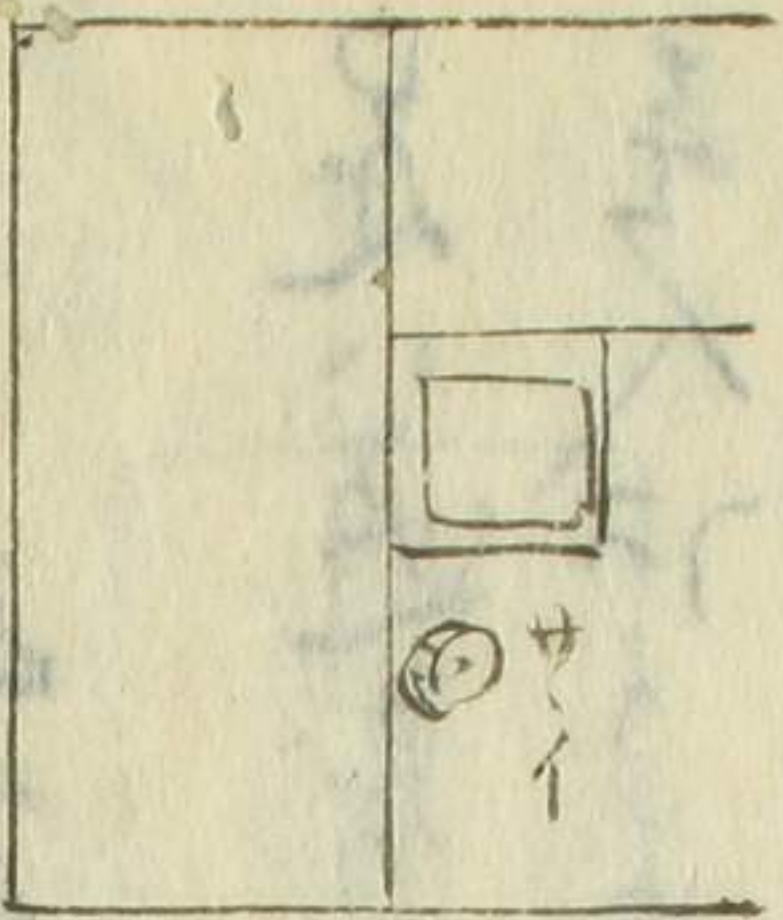
二ノ舟南運

一 舟南運ニ舟南運ナリ一 舟南運ニ舟南運ナリ

多分付込てPのむ一のるる茶之物也
及ん付込柄の通て少佐と同扱と

刺螺蓋金

是のるる扱以少佐と同し軍之利体
くす平之京通方今に在り



刺螺蓋金 是のるる扱以少佐と同し軍之利体
くす平之京通方今に在り

穂屋蓋置

一 穂子長柄の時ハ蓋置仕取のり
谷のりハ穂置ん時穂置仕取ナ
とりた一のせ太赤ト蓋置あり返して
穂子本のりハ一色つけ谷のりハ
おんく仕取のりモ柄柄と柄柄達ハ指
亦おのりハ一穂置仕取あり蓋置仕取の
おんく仕取のりハ一穂置仕取あり

あも同じけ付物行るん形はさうの
種尾をさりの書物近し主付物
相張る引く内編しけらるるべし

早角成ヤカウ

一 炸回るとは其意目ニテモ炸の跡の通
る事不重柄物引之ハ後付ハ角成
主キ物行柄の通る事不重成方角

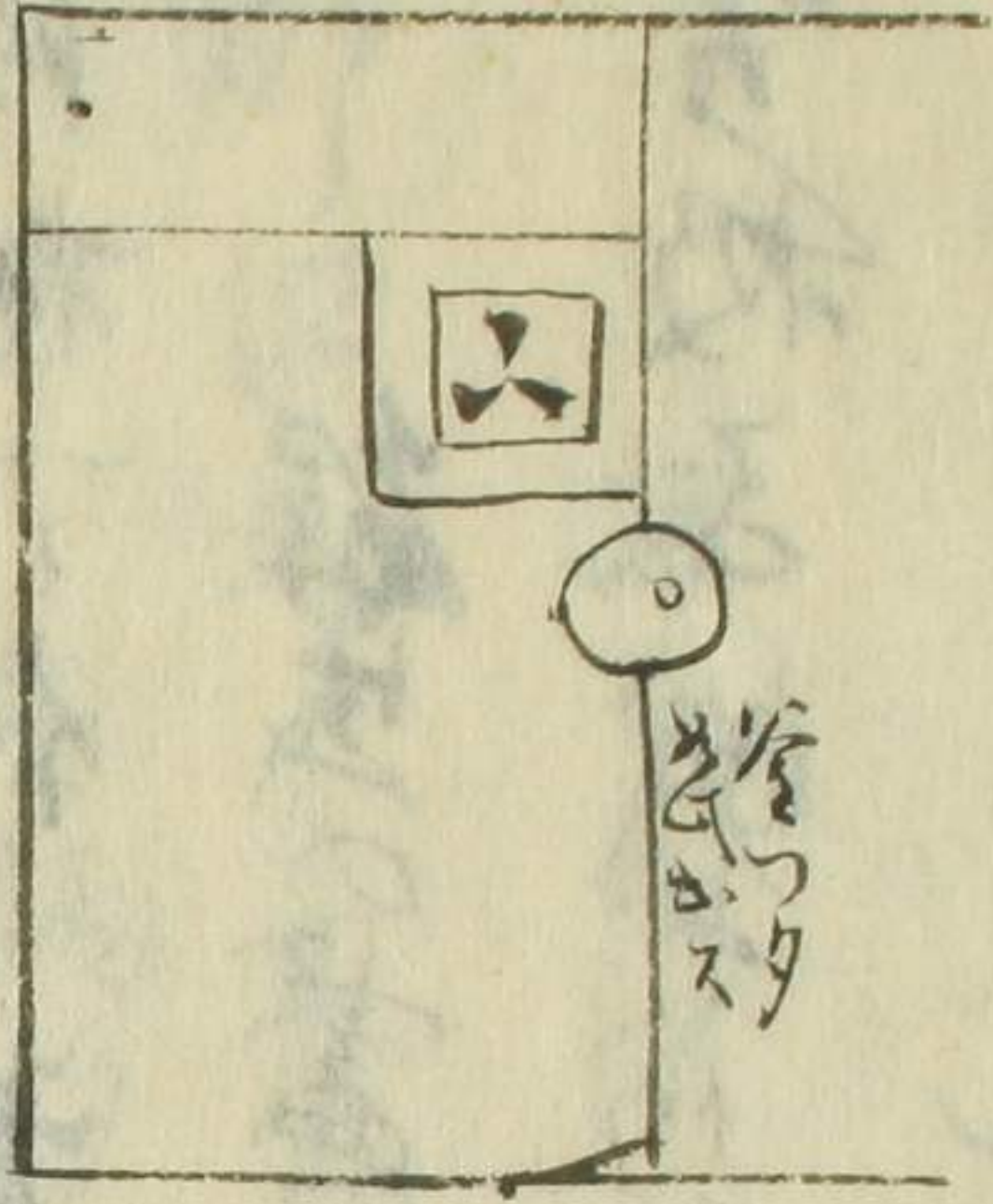
一 初難小管の書物を後鏡物取用
柄柄一行ハ書物をとも揚

解法の本意

一 各級子油を一月ハ必物
の由

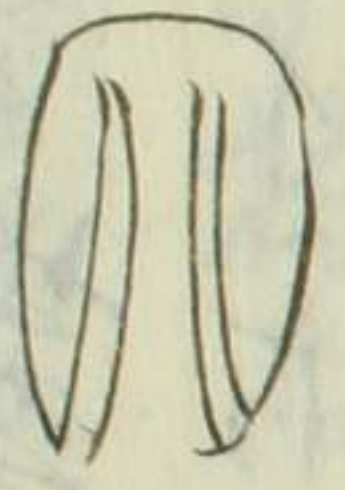
各級子油を一月ハ必物の由

一 白鳥の肘を蓋に蓋の縁が二重に
 して是も袖の縁の末とく、象牙柄
 柄をすし、蓋のうら、肘外へさす



象牙柄

一 他家の如く、常の如く、蓋が二重に
 して、蓋の縁の末とく、象牙柄
 柄をすし、蓋のうら、肘外へさす
 象牙柄の如く、蓋の縁の末とく、象牙柄
 柄をすし、蓋のうら、肘外へさす



象牙柄

象牙柄の如く、蓋の縁の末とく、象牙柄
 柄をすし、蓋のうら、肘外へさす

一 蓋以方りし中
くそ色し蓋紙傳白きり
はせち一個のく不限り
らぬしもの用之又方りぬ
常と

脂河包菜の事

一 常のかく菜は
ふとま支方分々
ふとま支方分々

抄

を白(玄)ゆけ
たふ持おへ
おへ上へた
を脂河を
たのよ
故古ふ持
菜は
世千

在る事也

茶の摘む事

一 好にむい茶の摘む人のいづくの右にむく
凡好にむいハツクの内へむく候時
遠くむい又むくの右へしかば先斗は
茶の摘むは茶の摘むは先斗は
右へむくは先斗は

茶の摘む事

一 好にむい茶の摘む人のいづくの右にむく
凡好にむいハツクの内へむく候時
遠くむい又むくの右へしかば先斗は
茶の摘むは茶の摘むは先斗は
右へむくは先斗は

一 好にむい茶の摘む人のいづくの右にむく
凡好にむいハツクの内へむく候時
遠くむい又むくの右へしかば先斗は
茶の摘むは茶の摘むは先斗は
右へむくは先斗は

茶の摘む事

一 好にむい茶の摘む人のいづくの右にむく
凡好にむいハツクの内へむく候時
遠くむい又むくの右へしかば先斗は
茶の摘むは茶の摘むは先斗は
右へむくは先斗は

致抄之事も其の先是に重き也
一らるれば付ハ又好くさ儀も其の
重てて御致抄て者も其の儀も
付も其の儀も改考も其の儀も

み徳堂置道の手

一 其子の世柄の時ハ本親ハ生も其
上ハ一々之儀も其の儀も其の儀も

時端ハ方端上ハ此ハ其の儀も
此の儀も其の儀も其の儀も
此の儀も其の儀も其の儀も
右ハ其の儀も其の儀も其の儀も
此の儀も其の儀も其の儀も
上ハ其の儀も其の儀も其の儀も
此の儀も其の儀も其の儀も
此の儀も其の儀も其の儀も
此の儀も其の儀も其の儀も

一 炸の時極致もともせらる時と炸の
角常はゆゑ重くもたむる子の通り
方極く

一 務めの方と向く入る出た事の方方ハ
せぬ事ふらぬとも若又今程の時と
常の如く極致極有ふおそく太く
少くも重く方せこゝのゆゑ輪
然く此を重く

一 用人世重

茶道具運事

一 道具ハ其指ハ茶碗茶入お茶お茶
舟取付ハ皆客の方ハ且る端也
仕込く有ハ其時下氷籠斗極
の方ハ且る重く是海成物有之
水指ハ支るもふて持出 を度指す時
茶舟有たのめん致し引本又太の引
入付も先ハ其時日成極々有

茶の淹れ方

茶入茶碗に茶をいれ茶碗を交へて
茶合の方少しとてよく攪ねて置ける
時先茶入を茶碗に茶碗を交へて
茶合の方少しとてよく攪ねて置ける
茶合の方少しとてよく攪ねて置ける



水指を以て攪ねて

今日淹る茶合

茶合に茶をいれ茶碗を交へて
茶合の方少しとてよく攪ねて置ける
茶合の方少しとてよく攪ねて置ける
茶合の方少しとてよく攪ねて置ける

茶合の方少しとてよく攪ねて置ける

茶合の方少しとてよく攪ねて置ける

の火の煙をのめるとするは、上ノ草を
取るといふ柄柄は、よく

茶点の時藤浦の

茶点の時太藤浦にケるの有り

茶碗抄の事

茶碗の事、茶碗の事、茶碗の事

茶碗の事、茶碗の事、茶碗の事

茶碗の事、茶碗の事、茶碗の事

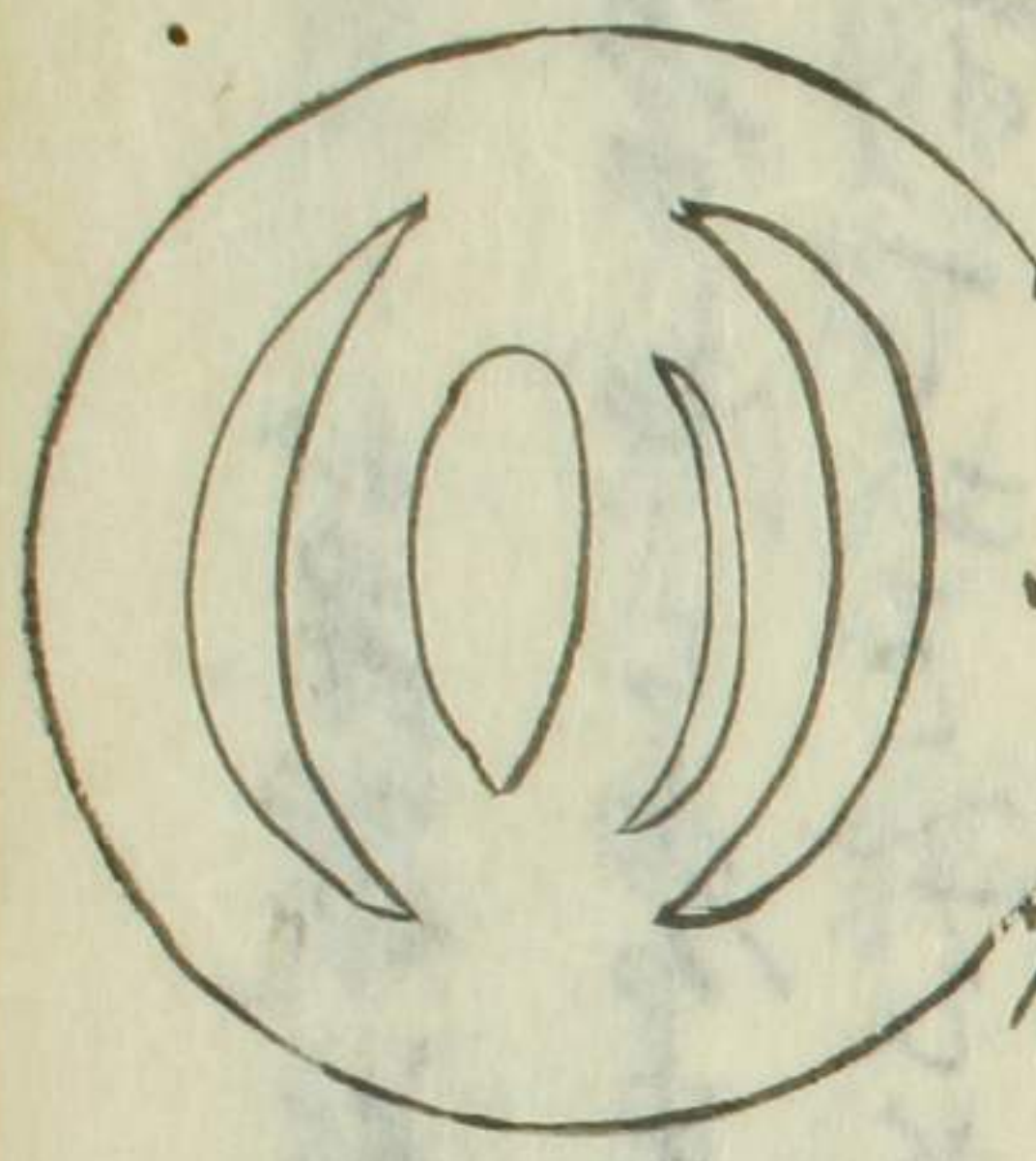
茶碗の事、茶碗の事、茶碗の事

茶碗の事、茶碗の事、茶碗の事

茶碗の事、茶碗の事、茶碗の事

茶碗中

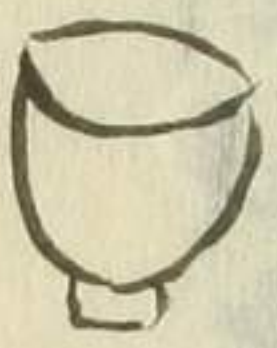
茶碗の事



茶碗腰の事

常盤と常束と成掛の時止之腰
折ておることを茶碗の下の方之迄
日不しくさ

懐中へおし膳付回し仕て
おとす



茶碗の事

四三折おす

茶碗の事

茶碗の事
極ゆる物に
し

茶碗の事

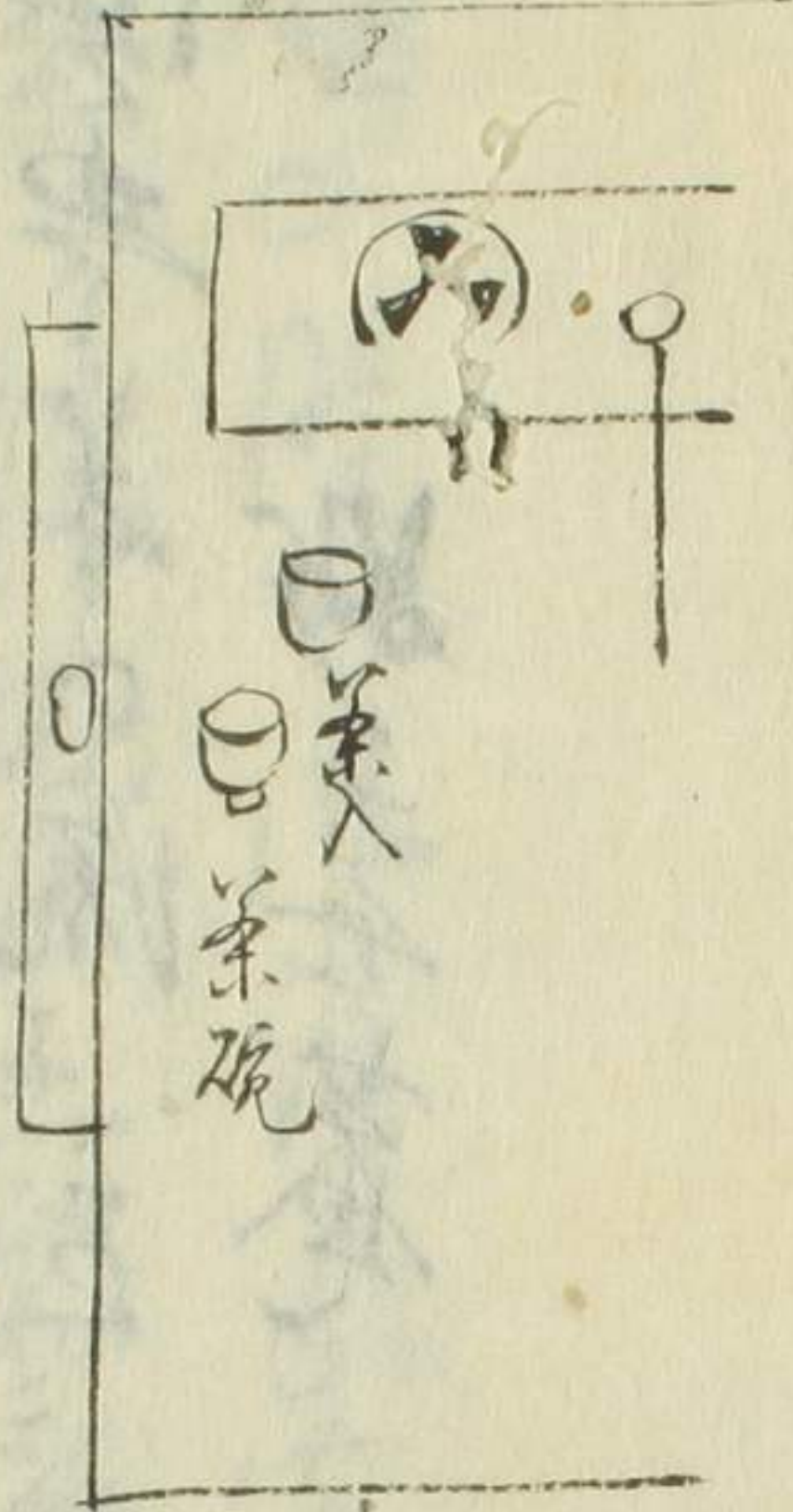
凡ゆる物に
束と

むたふても置合るるの常山ゆとも
先ん右の方能よし

一 茶息をとん付く指のあふ出たりめ
ゆにて茶碗の方身んら悪き由

送奉の事

一 送奉よりし甚ふ茶を立ると云るの存り
是を諸老のしるに用るるにハ
おたふしん



是は長柄をいへん
茶碗は
中水指

茶碗茶を持出す

一 東の方の上へお運びにアハをたのし
みの時もある如く是も亦茶を
茶碗回し指お持ちたりたふあにき

能くあるは時とて中よ

流滞の事

是は向切逆の事と云ふの事と四半の事と
向切先向切の逆の事と流と云ふ
向切の事と四半の流と云ふ事と
四半の流と云ふ事と

妙在菴

一 極の所も凡流の事同なり

一 兼、陽の時二般流の事と云ふ
の所方又ハれ流の事と

四半の事と東の事と極の事

一 四半の事と東の事と極の事と
兼、陽の時二般流の事と云ふ
の所方又ハれ流の事と

原々事小ハ母々ハ板リガの時ハ不能

とちやし

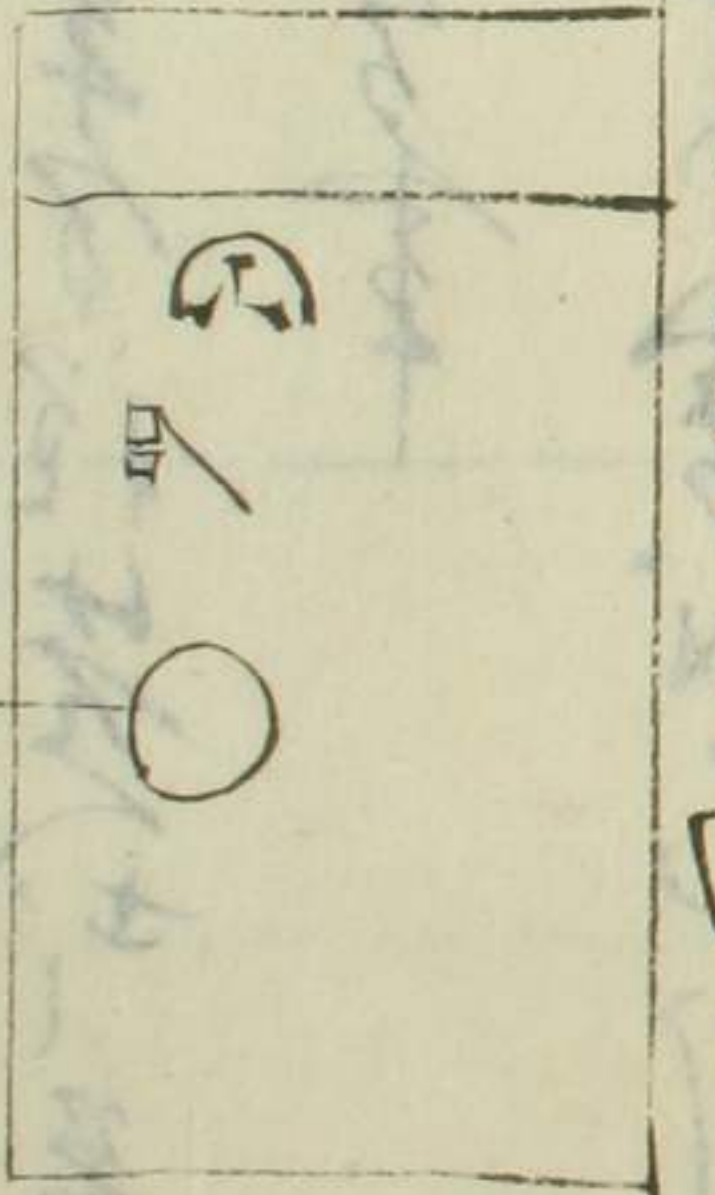
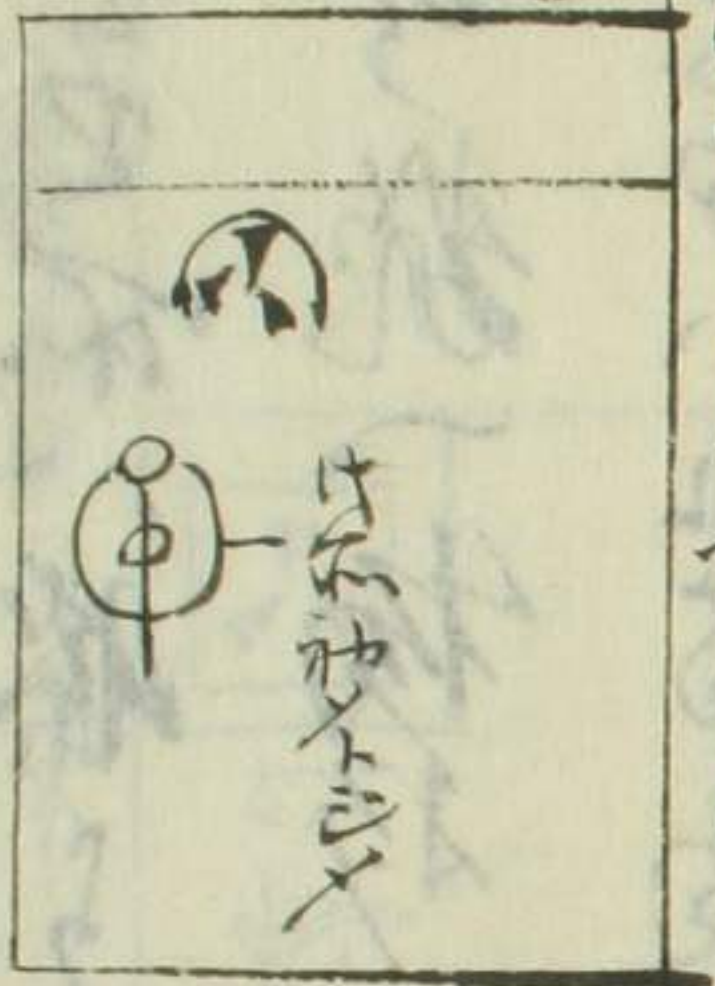
茶ノ葉柄袋ノ事

茶ノ袋(葉)セリノ事

茶ノ葉柄袋長方ノ木トモシ他長方
口ヨリ茶ノ方ハ向セテ事在リ付ハ茶袋
及ヒ口ス付又事ハ口ヨリ又白
不モ得ク又袋ノ上ハ茶柄ヲ裁セテ
事ト在リモ茶柄ハ付ハ茶ノ下ハ袋ト

曲水龍行

柄柄付ハ平ハ袋右ノ裏ハ向テ柄柄
及ハ柄柄ノ重方々大體目ヲ袋ノ方
ハ事ハハ之是古風ニ如シ茶袋ノ通ハハ
事ハ



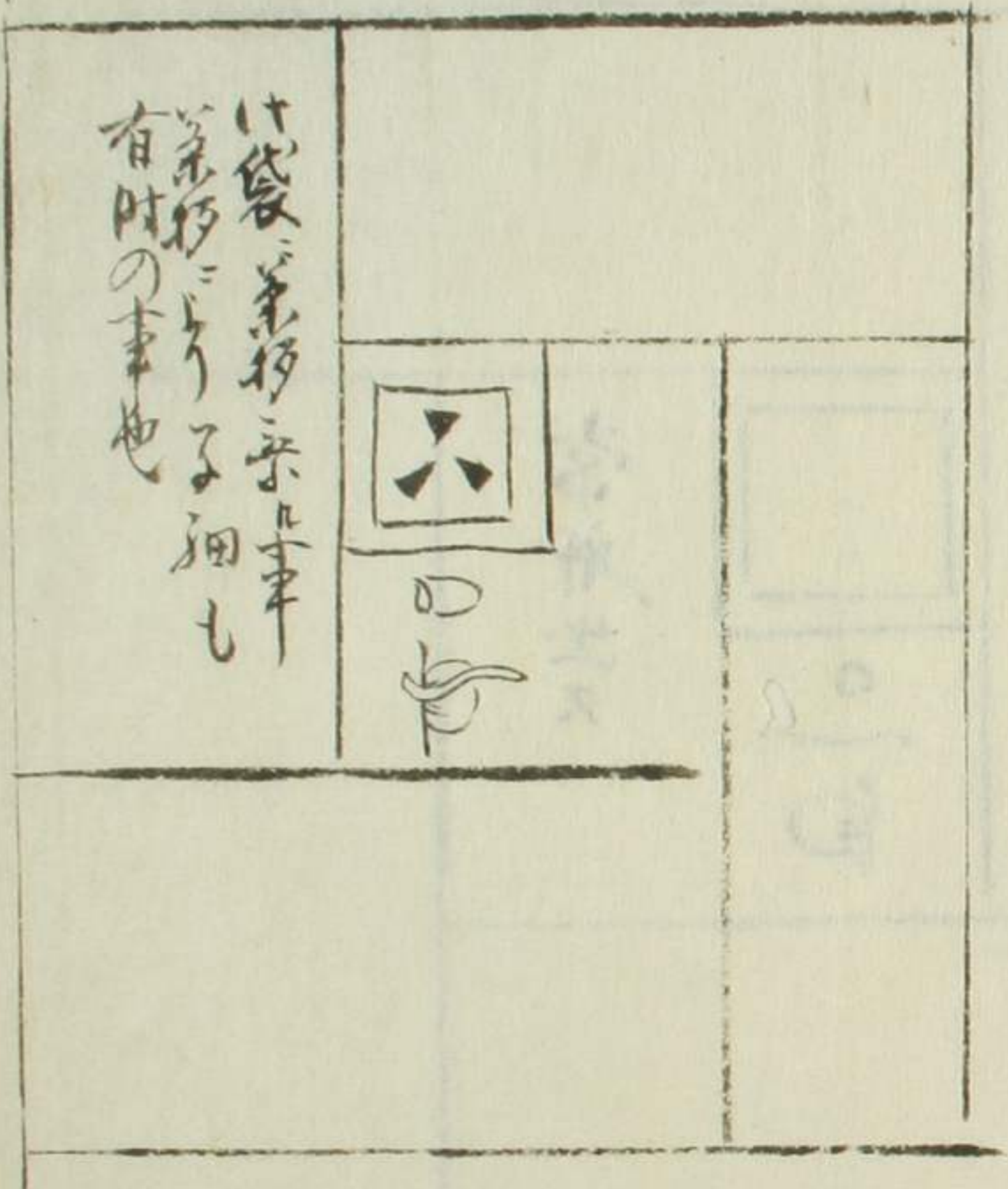
茶袋ハ右ハ向テ柄柄ヲ袋ノ上ハ目録ノ

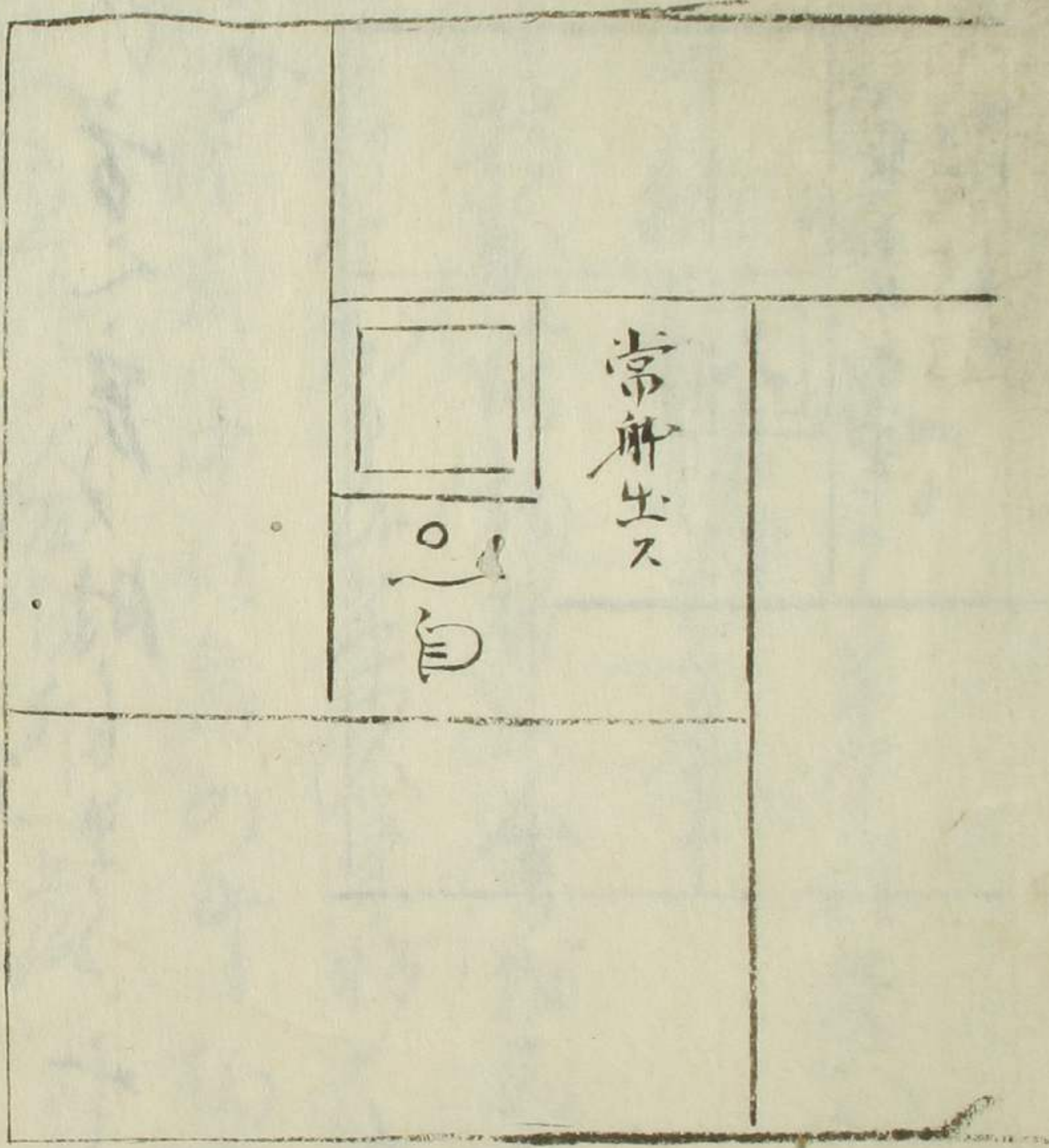
方(口)一(口)一(口)

一 正印(口)を不(口)に膝(口)う(口)半(口)分(口)に(口)禮(口)告(口)を(口)し(口)之(口)に(口)
 各(口)執(口)二(口)物(口)持(口)る(口)事(口)

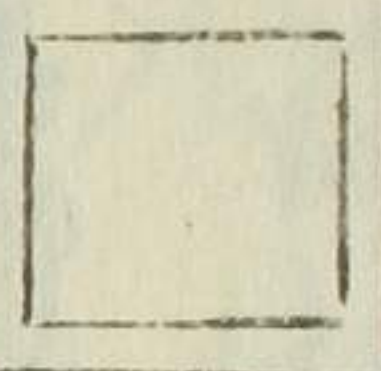
一 正印(口)持(口)者(口)は(口)時(口)柄(口)持(口)の(口)合(口)成(口)不(口)介(口)の(口)
 始(口)末(口)に(口)け(口)て(口)あ(口)り(口)し(口)る(口)業(口)持(口)は(口)儀(口)成(口)
 客(口)の(口)中(口)に(口)仕(口)る(口)の(口)時(口)柄(口)持(口)や(口)
 正印(口)一(口)に(口)合(口)成(口)不(口)介(口)の(口)始(口)末(口)に(口)あ(口)り(口)し(口)る(口)事(口)

一 正印(口)の(口)上(口)に(口)業(口)持(口)と(口)裁(口)ス(口)ル(口)之(口)を(口)業(口)持(口)
 正印(口)の(口)方(口)に(口)戻(口)ス(口)時(口)に(口)ま(口)る(口)事(口)通(口)不(口)
 儀(口)ス(口)也(口)





常所出入



日

